

## 編集後記

『記録と資料』第23号をお届けします。

まず、今号の特集は「自治体職員のみた資料レスキュー」です。震災から2年が経過。被災地での歴史資料の救済は様々な形で取り組まれ、その概要も報告されています。全史料協も陸前高田市での救済に取り組み、その報告書も近くまとめられると聞いています。今号ではそうしたレスキューの報告とは異なった観点で、歴史資料に関わる自治体職員が未曾有の災害に直面し、どう考え、どう行動したのかを報告していただきました。資料所蔵者との関係、レスキューに関わるボランティア団体の史料ネットとの連携など、課題も明らかにされた興味深い報告となりました。

論考は1本で、国立国会図書館でのインターネット上でのリファレンスに、アーカイブズ側からの参加の意義を、尼崎市の取り組みを通じて理論づけたものです。今回は1本だけです。会員の皆さまからの論考をお待ちしています。

アーキビストの眼は3本です。調査・研究委員会の取り組みである「公文書館機能普及セミナー in 佐賀」の報告と、佐賀県内の自治体の状況として小城市の事例を報告していただきました。あと1本は、昨年急逝された新潟の山本幸俊氏の活動を通じて、史料保存ネットワークとしての史料協の存在意義を訴

えたものです。茨城史料ネットの立ち上げに時間がかかったのは茨史協の解散が影響したとの話を思い出されました。今改めて史料協の存在意義を確認させられます。

世界の窓は、第17回 ICA（国際文書館評議会）世界会議プリズベン大会の参加報告です。また、日本の地方公文書館における現状と課題について報告された、広報・広聴委員でもある白井氏の参加記です。

アーカイブズ・ネットワークは、学習院アーカイブズ、福岡共同公文書館、歴史資料保全ネットワーク・徳島、ふるさと府中歴史館、京都大学研究資源アーカイブ、5機関の取り組み報告です。日本での資料保存への確かな歩みを確認することができます。

書評と紹介は4本です。阪神・淡路大震災を契機に史料ネットの立ち上げに関わってこられた奥村弘氏の著書などの紹介です。

資料ふぁいるは、調査・研究委員会による埼玉県・沖縄県・佐賀県で実施した「公文書館機能の自己点検・評価指標」調査結果です。

今号も盛りだくさんの内容になっています。  
＜和＞

〔広報・広聴委員会〕

小島 輝雄（委員長）

伊藤 康（編集長）

相京 眞澄 金原 祐樹

五島 敏芳 白井 哲哉

和田 義久 高木 秀彰

### 記録と史料 第23号 平成25年3月31日

**編集：** 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 広報・広聴委員会  
〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1 寒川文書館  
電話 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

**発行：** 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（会長 井口 和起）  
〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4 京都府立総合資料館  
電話 075-723-4834 FAX 075-791-9466

**印刷：** 徳島県教育印刷(株)  
〒770-0873 徳島市東沖洲2-1-13  
電話 088-664-6776 FAX 088-664-6775